

なるとう、しらはたこども園が開園
子どもの健やかな成長と
安心して子育てができる環境を提供

こども園化

幼稚園と保育所を一体化し、小学校就学前の子どもに教育・保育、子育て支援を提供する認定こども園、なるとうこども園としらはたこども園の2園が開園しました。

市は、こども園化をいち早く行い、なるとう・しらはたこども園の開園により、こども園は5園となります。

今日、時代の流れと共に少子高齢化の進行や家庭・地域を取り巻く環境が変化しています。将来、地域を支える子どもたちが、人間として、



給食作りの様子を見たり、食べることのできるランチルーム(なるとうこども園)

心豊かにたくましく生きる力をも身につけ、子どもたちを支える保護者や地域の子育て力が高まるよう、各種の支援を行うことが重要になっていきます。

市は、子どもたちが健やかに生まれ育つことができるよう、柔軟かつ適切に対応するため認定こども園制度に基づいた『こども園化』を行っています。

なるとうこども園は、成東幼稚園と成東保育所の施設を統合し、定



なるとうこども園の入園・進級式の様子

員240人(長児部・短児部、各120人)と二時保育や子育て支援センター事業を実施する、市内でも最大のこども園となりました。

施設は、地場産の木材である山武杉を積極的に活用した、やすらぎとぬくもりのある快適な空間となり、地球温暖化問題への対応と同時に資源の再利用を考え、林業・木材産業の振興などに配慮した木造園舎となりました。

しらはたこども園

しらはたこども園は、緑海・鳴浜の幼稚園と保育所の4園を統合しました。定員210人(長児部120人短児部90人)で二時保育や子育て支援センター事業を実施します。

また、統合前の4園は、建物の老朽化、津波の影響が懸念されていま



津波の際、退避所へ避難することができるついで庭(しらはたこども園)

だが、保護者からの要望を受け、震災の教訓を生かし、海岸から離れた場所へ防災機能を備え安全性を考慮した施設を建設しました。地震、津波対策として耐震性能を2.5倍とし、大津波の際も確実に避難できる2段階の避難場所を確保しています。

魂を吹き込む

竣工式で市長は、「幼児教育の一体化という一つの方向性が出来上がりました。これからです。職員のみなさんに魂を吹き込んでほしい」と、高い志をもち望んでほしい旨の話がありました。

4月11日には、なるとうこども園213人、しらはたこども園179人の入園・進級式が行われました。元気な子どもたちの声が、真新しい園舎に響いていました。



しらはたこども園の入園・進級式の様子

みんなに伝えたい『さんむの景観資産』 さんむの魅力が詰まった一枚

わたしたちの住む山武市は、約8キロにわたって続く白砂青松の十九里浜、のどかな田園風景、豊かな緑に覆われた丘陵地帯、商業や住宅地からなる市街地といった多

様な風景が広がっています。また、市内各所において、花や桜の植栽・管理、公園の管理、里山保全など景観に関する市民活動も活発となっており、市民の景観に対す

る気運も高まっています。このような市の魅力や地域特性を活かし、景観に配慮したまちづくりを進めるため、昨年度から「山武市景観計画」の策定を行っています。

その一環として山武市らしい景観を多くの市民の方と考えようと、今年で2回目となるフォトコンテストが実施されました。

応募者総数は、59作品(26人)と

なり、1次審査を第2回景観ワイワイ広場(市民懇談会)で行い、26作品が審査を通過。決選投票を市民投票で実施し、入賞者8人9作品が選ばれました。

作品ひとつひとつが、私たちに郷土の魅力を気づかせてくれます。そしてこの魅力あふれる景観を、次世代に引き継いでいきます。

最優秀賞 林 成美さん
優秀賞 秋葉 俊秋さん

入賞 松下 光見さん
加瀬 智代さん
佐瀬 孝一さん
加瀬 咲月さん
加瀬 智代さん
花澤 義高さん
花澤 とみさん



入賞者への表彰が行われました(3月22日)

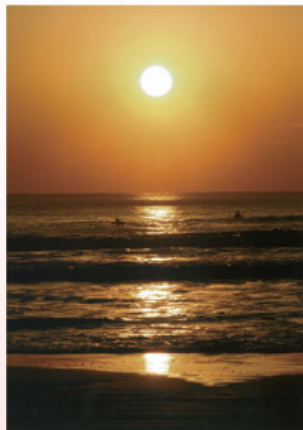
最優秀賞 林 成美さん

朝霧の神秘なる山武杉林(沖渡)



優秀賞

日の出とサーファー(本須賀海岸)



加瀬 智代さん

桜と浪切不動尊(浪切不動尊内)



秋葉 俊秋さん

夏の思い出(本須賀海岸)



松下 光見さん